科目名	在宅看護学演習Ⅲ Home Care Nursing Seminar Ⅲ	担当教員 (研究室番号)	未定	教員への連絡方法 (メールアドレス)	

履修年次	1年次 後期	科目区分	専門科目	選択区分	コース必修	単位数(時間)	2(30)	授業形態	演習	科目等履修生	否
										遠隔授業	全部

科目目的	在宅療養者の看護計画の立案と実践・評価を含めた在宅看護過程を展開する。複雑で多様な課題を持つ療養者やケア提供者について、在宅療養者の健康と生活に活用できる理論やモデルを応用して、家族、セルフケア、生活環境をアセスメントし、倫理的・臨床的判断を総合して、問題解決方法を提案する。	
ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(DP)	主要なDP	3.地域の特性や変化する社会のニーズを的確に捉え、看護学教育および実践看護学に関する課題を追及していける研究能力を身につけている。
	関連するDP	2.豊かな人間性と倫理観を身につけ、看護専門職としてリーダー的役割が担える指導力やマネジメント力を身につけている。
到達目標	1. 在宅療養者の看護計画の立案と実践・評価を含めた在宅看護過程を展開する。 2. 在宅療養者の健康と生活に活用できる理論やモデルを応用して、家族、セルフケア、生活環境をアセスメントできる。 3. 複雑で多様な課題を持つ療養者やケア提供者について倫理的・臨床的判断を総合して、問題解決方法を提案できる。	
成績評価方法(基準)	授業への参加度（授業準備・積極性）50%、授業中の取り組みや態度30%、レポート20%	
教科書	随時、テキストなどは紹介する	
参考書等	随時、テキストなどは紹介する	
受講者へのメッセージ	講義に事例検討のための討論を交えて行う。積極的な参加と主体的な取り組みを期待する。	
備考		

回	学習項目	学習内容	主担当教員	授業方法
1回	在宅看護過程の基本特性 ①	生活者として対象をとらえ、療養者と家族を併せて1単位の対象とする。療養者と家族の生活、価値観、希望を優先し、療養者と家族の力を生かした支援方法を駆使する。 ・幅広い視点での＜情報収集＞ （家族・セルフケア・生活環境） ・家族アセスメント、セルフケアアセスメント、生活環境アセスメントを活用した＜課題の明確化＞ ・家族の総合的な健康維持を目標とする視点と多職種協働と連携を踏まえた＜在宅看護計画立案＞ ・その時その場で必要なケアを実践する＜在宅看護実践＞ ・法的な根拠と看護の継続性を保ち、看護実践を評価する＜記録と評価＞	未定	ライブ配信
２回	在宅看護過程の基本特性 ②	・セルフケア能力を引き出すための教育的支援 ・在宅療養の場の構造化（ICF） ・対象の障害を構造からみる見方 impairments, activity limitations, participation restrictions ・療養者とケア提供者のストレス認知と評価 ・8つのセルフケアの要件とADL評価 ・生活状況の構造化 （生活関係・生活時間・生活空間・生活習慣） ・介護状況の把握等	未定	ライブ配信
３回	在宅看護過程の基盤となる基本的知識の確認	・在宅看護に関わる関係法 （医療法、介護保険法、健康保険法他） ・在宅看護に関わる関係職種 （医師、歯科医師、薬剤師、PT、OT 社会福祉士、介護福祉士、栄養士、医療機器専門業者、MSW他） ・在宅看護に関わる関係機関 （市町村の保健医療福祉の総合窓口） ・在宅看護に関わる経済的側面 （診療報酬）	未定	ライブ配信
４回	在宅看護の倫理的課題を考える	訪問看護における倫理的課題について学ぶ意義を確認し、問題の所在や方向性、対応の原則等について講義する。 ・対象の意思決定を支援する看護と家族による代理意思決定の支援 ・対象者の権利擁護 （1988年、患者の権利宣言） ・看護者の倫理綱領 （2003年.日本看護協会） ・成年後見制度（2000年） （自己決定の尊重・残存能力の活用・ノーマライゼーションの3理念） ・高齢者虐待防止法（2006年）の概要 ・情報管理 （対象家族のプライバシーの保持）	未定	ライブ配信
５回	在宅看護場面における臨床的課題を考える ①	訪問看護における臨床的課題について学ぶ意義を確認し、問題の所在や方向性、対応の原則等について講義する。	未定	ライブ配信
６回	在宅看護場面における臨床的課題を考える ②	訪問看護における倫理的・臨床的課題について、『訪問看護における倫理的課題とその対応モデル作成に関する研究報告書』を題材に読み合わせ、グループ討議と発表を行う。	未定	ライブ配信

回	学習項目	学習内容	主担当教　員	授業方法
７回 ８回	事例検討 ①：複雑多様な課題をもつ療養者やケア提供者の事例	認知症により強い嫉妬妄想があり、同居の妻や娘夫婦に対する猜疑心が強い70代のCOPDの男性。感染等による呼吸不全による入院を繰り返すが、入院生活には適応できず、当人の強い帰宅願望により自宅退院し訪問看護を受ける。妻は妄想からの暴力や暴言に疲弊し、娘夫婦は母を気遣い、暴力行為が孫である子どもたちに及ぶことを恐れながら介護を続けたが、主介護者の妻が離婚を希望するようになり、当人の施設入所を決意。入所中に呼吸状態悪化し緊急処置として隣接する医療機関で気管内挿管・人工呼吸器装着となる。医師より、本人の望む自宅退院には気管切開によるＩＰＰＶをと提案され、代理意思決定を迫られ悩んでいる事例の看護過程展開を行う。 事例検討後の発表・討議の過程で、倫理的・臨床的判断の意味を明確にする。	未定	ライブ配信
９回 10回	事例検討 ②：複雑で多様な倫理的課題をもつ事例	『療養者・家族からのセクシャルハラスメントに関する事例』、もしくは『高齢の療養者に対する虐待が疑われる事例』を学生が事例提供する。提供された事例のその時点での情報を整理し、論理的に看護問題を抽出し、ケアプランの立案を行う。 　事例検討後の発表・討議の過程で、療養者・介護家族からのセクシャルハラスメントへの対応の原則と対処方法を明確にする。この段階で、法的根拠を明確にして、アセスメントの妥当性、対象者の尊厳を守る配慮、ケアプランの適切性等の視点から討論する。 教員は学生と共に討論に参加する。	未定	ライブ配信
11回 12回	事例検討 ③：複雑で多様な倫理的課題をもつ事例と看護過程	『IPPV下で在宅療養中の小児の事例で母子密着状況における父親と子の兄弟の心理社会的複雑で多様な臨床的判断や倫理的課題をもつ事例支援』、もしくは『脳血管疾患後遺症による寝たきり状態の独居高齢者への成年後見制度導入を考えた支援』等の事例を学生が提供し、本事例への看護過程展開を試みる。 事例検討後の発表・討議の過程で、療養者・介護家族のもつ倫理的課題と臨床判断の調整的関わりと、療養者・家族の主体性を尊重した意志決定を支援するための情報提供や関わり方について確認する。対応の原則と対処方法を明確にするために、教員を交えて討論する。	未定	ライブ配信
13回 14回	事例検討 ④：複雑で多様な課題を持つ療養者やケア提供者に関する体験発表	学生が、複雑で多様な臨床的判断や倫理的課題をもつ事例を対象にした在宅看護体験と対応の実際について、レポートを提出し、発表する。学生は、前回までの例示と看護過程演習を踏まえて、自分の過去の実践例を評価し、アセスメントの妥当性、実践の過不足や他の対応の可能性等について、教員を交えて討論する。	未定	ライブ配信
15回	本科目のまとめ	複雑で多様な課題を持つ療養者やケア提供者について、的確な倫理的・臨床的判断を行い、これを総合して、問題解決方法を提案し、実施する在宅看護者の役割について確認し、対象を尊重しながら、冷静で論理的な対応が、改善策につながることを具体的な例を持って講義する。	未定	ライブ配信